

2025年度

授業概要

科目名	運動障害性構音障害Ⅱ			授業の種類	演習	講師名					
授業回数	15	回	時間数	30	時間	2 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2年	後期

【授業の目的・ねらい】

運動障害性構音障害の評価・訓練および他の発話障害との鑑別について総合的に把握し、臨床に必要な基礎的な検査や訓練方法および発話補助手段について理解できる。

【実務者経験】

言語聴覚士として病院に勤務、急性期、回復期、外来の失語症、高次脳機能障害・嚥下障害・構音障害分野でのリハビリテーションに従事。

【授業全体の内容の概要】

【授業全体の内容の概要】
テキストや音声、動画を用いて、運動障害性構音障害と他の発話障害との鑑別について理解する。
臨床に必要な基礎的な評価や訓練方法および発話補助手段について学び、実践する。
評価から訓練立案に必要な基礎的な知識を身につける。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

【授業終了時の達成目標（到達目標）】
運動障害性構音障害と他の発話障害を鑑別できる。
臨床場面で必要とされる基礎的な評価や訓練を実践できる。
評価から基礎的な訓練の立案ができる。

回数	講義内容	準備物(教材)
1	運動障害性構音障害の評価の概要を理解できる。	テキスト
2	標準ディサースリア検査の概要が理解できる。	テキスト
3	標準ディサースリア検査の一般的情報収集・発話の検査ができる。	テキスト
4	標準ディサースリア検査の発声発語器官検査ができる。	テキスト
5	標準ディサースリア検査の発声発語器官検査ができる。	テキスト
6	標準ディサースリア検査のまとめと結果の解釈、ICFに基づいた評価ができる。	テキスト
7	運動障害性構音障害の訓練の概要を理解できる。	テキスト
8	運動障害性構音障害の訓練の概要を理解できる。	テキスト
9	失語症・発語失行との鑑別診断ができる。	テキスト
10	呼吸機能へのアプローチができる。	テキスト
11	発声機能へのアプローチができる。	テキスト
12	鼻咽腔閉鎖機能へのアプローチができる。	テキスト
13	口腔構音機能へのアプローチができる。	テキスト
14	発話速度の調整法ができる。	テキスト
15	拡大・代替コミュニケーションのアプローチができる。	テキスト

【使用教科書・教材・参考書】

【使用教科書・教材・参考書】
『ディサースリア臨床標準テキスト 第2版』医歯薬出版

他の科目の使用教科書等を使用する場合があります。その際は随時指示します。

【準備學習・時間外學習】

【午前会員時間会員】あらかじめテキストの内容を確認してから授業に臨んでください。
また、授業後の復習も欠かさずに行ってください。

【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】

試験の結果を100点満点として評価する。
課題を10点、小テストを20点、定期試験を70点として合計100点とする。
合計60点以上の場合に科目を認定する。